

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもとあそび		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において 0～5歳児の保育に従事した。 また、担任業務、主任業務、実習生指導を担当した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・全期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 伝承遊び、わらべ歌等伝統的な遊びから手遊び、歌遊び、ゲーム等現場で活かせるように実践力を身に付ける。 ・ レクリエーション援助技術を実践できる。 ・ 指導技能を身につける。 [授業全体の内容の概要] ・ お手玉、あやとり、「あおむしてたよ」「ずっとあいこ」等の手遊び、「あぶくたったにえ たった」「はないちもんめ」等の伝承遊び・昔遊び、「おすんでひらいて」「いとまき」振付を交えた季節の歌、なりきり遊び、縄跳び等保育園で役立つ演習を行う。 ・ 折り紙指導、遊びの計画指導を行う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ コミュニケーションワークとしてのホスピタリティ、アイスブレイキングの技法が活動の中で実践できるようになる ・ 現場で役立つ技能を身につける ・ 行事等の企画・運営・評価ができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 初めましてのレクリエーション 手遊びや挨拶歌、じゃんけん遊び 2. お手玉を作り、遊ぶ 3. お手玉遊び、手遊び、昔遊びやゲーム、 ・ あいさつうた、振付を入れた季節の歌 4. 少人数縄跳び、大人数縄跳び 5. 6. お手玉遊び、手遊び、昔遊びやゲーム、 あいさつうた、振付を入れた季節の歌 7. 8. 9. 10.		16. あやとり<一人或いは全体。一つ技・連続技>・歌に合わせた振付遊び<おすんでひらいて><いとまきうた><チェェコリ> 17. ↓ ・ 集団遊び<おおかみさん今何時> <木の中のりす><進化じゃんけん> 18. <ジャンボじゃんけん>等 19. 20. 21. あやとり<一人或いは全体で行う。一つ技連続技>・歌に合わせた振付遊び<おすんでひらいて><いとまきうた><チェェコリ> ・ 集団遊び<おおかみさん今何時> <木の中のりす><進化じゃんけん> <ジャンボじゃんけん>等	

<p>11.</p> <p>12.</p> <p>13.</p> <p>14.</p> <p>15. 手遊び、お手玉の完成度の確認（試験）</p>	<p>22.</p> <p>23.</p> <p>24. 折り紙の模擬指導体験をする</p> <p>25. 指導体験をする<好きな遊びの提供></p> <p>26.</p> <p>27. グループで遊び計画を立てる</p> <p>28.</p> <p>29.</p> <p>30. あやとりの完成度の確認（試験）</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「手あそび百科」（ひかりのくに出版） ・「あそびうた大全集」（株）永岡出版）
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもと自然		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 瀧澤 延子	実務経験	私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において 0～5歳児の保育に従事した。 また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った。	
授業担当者 若杉 諭美	実務経験	私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育現場で、子ども達と一緒に自然の中に出掛け自然を実感させるような指導ができるようになる。			
[授業全体の内容の概要] 野外活動や演習により授業をすすめ、授業の終わりに学生自身が振り返りを行うことで学びを深める。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 乳幼児期には日常的に、自然に触れ合う事が豊かな人間形成の為に大切であることを踏まえ、保育士として自然への理解を深め感性を育てる。また、野外活動で実践力をつけ自然への磨かれた感性と柔軟な対応が身につけられるよう指導をする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
【前期】 4月 ・年間計画について・目的について・内容について<春探し> ・散歩について留意点について話し合う。 ・探した春を観察画にして画用紙にて提出 5月 ・<春探し><防災公園> ・さつまいもの苗植えについて考察・観察画を描く ・農の駅「あぐらって」に於いて、さつまいもの苗植えを行う ・探した春を観察画にして画用紙にて提出 6月 ・<雨観察><生き物探し> ・雨の中で遊び、それについて考察したことをレポートにて提出 ・生き物探しをする ・砂場で必要な道具を作り遊ぶ		【後期】 9月 キャンプ体験の振り返りをする 10月 ・<さつまいも掘り>について考察・観察画 ・<悠久山で焼き芋> 落ち葉拾い・木の実拾い→ 絵を描く 11月 ・<水栽培><秋探し> ・ヒヤシンス栽培をするための容器づくりをする ・ヒヤシンスの観察画を描く(変化に応じて開花するまで8枚の観察画を描く) ・落ち葉拾い・木の実拾い 12月 ・<秋探し><リース作り> ・秋探して得たものを利用してリースを作る ・雪下野菜について学ぶ ・保存方法及び調理方法について学ぶ <親子野菜おたより制作>	

<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <夏遊び> ・ シャボン玉遊び・ ・ 道具を作って遊ぶ ・ 川遊び・ ・ 道具を作って遊ぶ ・ 自然観察についての準備をする（内容検討・活動班・しおり作り、その他） <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコミュージアムにおいて、自然観察体験をする。 	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <雪遊び> ・ 防災公園に於いて積雪に関係なく第2週に実施する。 ・ 遊びの内容を考察させる（渦巻き陣取り・雪だるま作り・雪あそび等）
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義用に作成したプリントをその都度配布する。
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・ 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習指導 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 羽瀧 めぐみ	実務経験	公立・私立保育園、認定こども園にて0～4歳の保育、一時保育、子育て支援、保護者支援。こども発達相談室にて発達支援・相談業務などに従事した。	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3, 4, 5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 保育所・施設などの機能や内容、保育士としての職務について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 保育実習の意義と目的について理解する。 ・ 実習に向けて、自分自身にどのような準備が必要なのかそれぞれの自己課題を見出し、そこへの意識付けを行う。 ・ 実習生として最低限必要なマナーや守秘義務等の姿勢を身に付けると共に、記録をとる際の技術習得を目指す。 ・ 自らの指導案作成を通しては、計画・実践・省察(評価)のサイクルへの理解を深める。 ・ 実習後には実習全体を通じた振り返りを行い、個々の課題を抽出し次回実習への改善点を把握することができる。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 実習などを通して各自の保育観・児童観を身に付ける。 ・ 実習の重要性を体感することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 自己紹介ボードの説明、計画を立てる。 2. 自己紹介ボード作成① 3. 自己紹介ボード作成②、 保育実習 I (保育所) 希望調査用紙配布 4. 自己紹介ボード発表と提出 5. 実習エプロン説明、計画立てる 6. 実習エプロン制作① 7. 実習エプロン制作② 8. 実習エプロン制作③ 9. 実習エプロン制作④ 10. 実習エプロン発表と提出 11. 日誌の書き写し 12. 施設実習とは何か(目的と意義) 13. 保育実習 I (施設) 実習の希望調査用紙配布、自主実習に向けての説明	16. 夏休みの課題回収および発表、自主実習後の振り返り 17. 実習日誌記入に向けた説明、日誌の必要性を学ぶ 18. DVD を観て日誌に書き起こす 19. 実習の手引き配布、書類作成(誓約書・調書) 20. 実習に臨むにあたり 21. 特別講義 22. 指導案作成に向けた説明、保育実習 II・III の希望調査 23. 指導案作成①(導入～絵本読み聞かせ) 24. 指導案作成②(導入～ゲーム運営) 25. 実習前オリエンテーションに向けた準備、予約		

<p>14. 保育実習 I（保育所）の目的と意義について学ぶ</p> <p>15. 自主実習指導（事例）、保育者のマナーとは</p>	<p>26. 実習の日々のねらい作成（12 日分）</p> <p>27. 実習評価・実習のまとめ・お礼状・出勤簿についての説明、持ち物検査実施</p> <p>28. 指導案返却、実習出発式に向けた準備・リハーサル</p> <p>29. 実習日誌記入上の諸注意、実習日誌の実際を学ぶ</p> <p>30. 実習ファイル配布</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の記録と指導案（ひかりのくに） ・mew 保育教本（オリジナルテキスト） ・実習の手引き ・その他参考資料を適宜配布
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・出席・提出物・授業態度などの状況、課題日誌の到達度などから判断する。